

令和5年度秋田県総合政策審議会
第2回 観光・交流部会（議事要旨）

1 日時 令和5年8月10日（木）午前10時～午前12時

2 場所 秋田地方総合庁舎4階 402・403会議室

3 出席者（敬称略）

【観光・交流部会委員】

丑田 俊輔・・・ハバタク株式会社代表取締役

齋藤 あゆみ・・・旅のわツアー代表

佐々木 亜希子・・・能代市市民活動支援センター長（部会長代理）

吉澤 清良・・・立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部教授

（部会長）（オンライン参加）

【県】

観光文化スポーツ部 次長 岡部 研一

次長 川村 潤

次長 佐々木 重夫

インバウンド推進統括監 益子 和秀

関係各課長 等

4 あいさつ

●吉澤部会長あいさつ

はじめに今回の大雨で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、早く普段の生活に戻られることを願っている。

災害が頻発してるが、観光地にあっても「観光危機管理」という備えをしておくことの重要性を改めて感じている。特に皆様の関心事は、観光への風評被害への対応であると思う。風評被害への対応については、目指す姿1の情報発信や交通ネットワークにも該当するので、会議を進めていく中で、委員の皆様には積極的な発言をお願いしたい。

リモートでの参加となるが、議事を円滑に進めてまいりたいので御協力をお願いする。

3 議事

（1）秋田県総合政策審議会での提案事項について

□三浦交通政策課長

（総合政策審議会での意見及びGoogleマップ等で活用できる地域公共交通情報のオープンデータ化に係る取組について、資料1により説明）

●吉澤部会長

秋田県への観光客の多くは、近場から自家用車でいらっしゃる方が多い。その意味では地

域公共交通を利用する機会はあまり多くないと思われる。地域公共交通の利用促進については、これまでの御意見をいただいているが、改めて利用促進のほか、環境負荷の低減に向けたモーダルシフトの推進などについても伺いたい。

●丑田委員

地域公共交通の利用促進については、地域のインフラとして維持することが重要である。

公共交通機関を活用した、歩いて楽しめるまちづくりは、五城目の朝市エリアでも重要視されている。こうしたインフラを、観光とも連動しながら運用することは大事である。

一方、中心部以外には公共交通によるアクセスが難しく、県外からの観光客はレンタカーか、タクシーなど、限られた選択肢しかない。

最近、旅行者からは、タクシーの手配が難しいことや、レンタカーも災害時特有な事情もあって満足に使用できないなどの声を聞いており、ライドシェアのような規制緩和についても考える時期にきていると思う。

さらに、宿泊施設、レストランによる有償送迎を一部解禁することも必要ではないかとの意見も聞いており、公共交通機関でカバーできない部分について、観光とセットで考えることによって、補完的な取組になると思う。

●吉澤部会長

冒頭のまちづくりに係る意見は、歩いて楽しめる観光地をどうやって作るかということにつながる。

また、二次交通全般に関わることであるが、使い勝手のよい交通基盤の構築に向けて、いろいろと課題はあると思うが、規制緩和の必要性などについて、どうやって国へ現状を訴えていくかも考える必要がある。

●佐々木委員

Google マップを活用したシステムは、観光客向けかそれとも住民向けか。

□三浦交通政策課長

バス路線は、生活交通として利用されている路線もあれば、観光客が利用する路線もあり、住民と観光客の双方に利用していただきたいと思っている。

また、Google マップは多言語に対応していることから、インバウンド誘致を進める上で、利便性向上にもつながる取組であると考えている。

●佐々木委員

Google マップは、観光客には便利だと思うが、地元では高齢者が多く、こうした方がシステムを利用できるかは疑問である。観光客にとって便利、かつカーボンニュートラルへの挑戦に向けた大事な取組であり、システム自体を批判するものではないが、実際、自家用車を使わないと生活できないなどの現状がある。丑田委員から発言があったが、人手不足などによってタクシーも減っている中で、デジタルに不慣れな人も簡単に利用できるようなシステ

ムを考えてほしい。

また、先月、湯沢市にある「川原毛大湯滝」に行ってきたが、全て県外ナンバー車で、事前に調べて水着を着ている方もいた。周辺には、「川原毛地獄」があり、秘境の地として外国の方にとっても魅力ある観光地であると思うので、もっとPRした方がいい。

●吉澤部会長

環境負荷の低減という視点のほかにも、交通弱者への支援といった観点からも二次交通を整備する必要があると思う。「川原毛大湯滝」についても、魅力的な観光資源へのアクセスの改善という視点において考える必要がある。

●齋藤委員

「川原毛大湯滝」が県外の方に人気があるのは、以前テレビでタレントが人生で一番印象に残った観光地だと答えていたことが要因かと思う。

交通については、佐々木委員と同じく、高齢者向けか、観光客向けかのアプローチの仕方を考えていかなければならないと思う。

以前、観光客向けに良いものを作ったところ、その周知の方法が地元広報のみだった事例があった。やはり誰に利用してもらいたいかを念頭にアプローチの仕方は考えていかなければいけない。

Google マップについては、観光客や若い方々にとっては便利である一方で、高齢者の方々は制度を知らないと思うので、両方にアプローチするのであれば、その方法を考える必要がある。

●吉澤部会長

地域住民を含め、どうやって周知していくか、使い勝手をどう高めるかは大切な視点だと思う。いいシステムなので、効果的な周知方法を考えてもらいたい。

(2)「新秋田元気創造プラン」戦略3に係る施策の提言について

●吉澤部会長

前回の部会で御意見がなかった分野に対して県から取組内容の説明をいただいた後、昨年度と同じ意見でも構わないので、ぜひ積極的な発言をお願いしたい。

□黒澤食のあきた推進課長

(目指す姿2、方向性②・③について、資料2により説明)

●吉澤部会長

目指す姿2の食の分野について、食品製造業の振興と県産品事業の販売促進に係る取組状況、今後の進め方などを説明していただいた。

疑問点や特に強調しておきたい取組などについて、御意見をお願いしたい。

●齋藤委員

県産食品について、デザインパッケージが重要で、商品購入やリピート率にも影響してくるので、こうした面にも力を入れた方がいいと思う。

また、ECサイトで販売する場合においては、商品購入を契機として、いずれは秋田を訪れたいと思われるよう、パンフレットを同封するなどのリピート戦略が重要である。

●佐々木委員

すばらしい取組をしていると思った。強調したい点は、食品製造業を支援する伴走コーディネーターを知らない事業者が多くいると思うので、もっとPRしていただきたい。

また、秋田空港内のラウンジでは、日本酒が2種類程度しかないので、加工品も含め、もっと品数を多くするなどして、県外の方に知ってもらう機会をつくった方がいいと思う。

コーディネーターが伴走支援する際は、販売方法などのプロモーションについても支援していただければと思う。

●丑田委員

全国と比較して本県の食品製造業は少し弱いと言われている中、20億円規模の企業を創るビジョンは非常に分かりやすい。

全国的に見ると、20億から50億円規模の食品製造業では、若い経営者が起業しているケースが多いと思われる。栃木県的那須にある「GOODNEWS」の社長はまだ30代であるが、この会社では、牛乳からバターを作る際に発生する大量かつ安価に販売される無脂肪乳の価値を高めたお菓子をつくっており、羽田空港などではかなり売れていると聞いている。

デザインも良く、値付けも安くし過ぎないということを、地域の事業者と連携して取り組んでおり、無駄なもの、廃棄されているもの、価値が低いものの価値を高めていくことで、持続可能な社会を形成しようとしている。

SDGsやサーキュラーエコノミーのようなキーワードを持って、食品製造に取り組んでいる事業者は、県内外に多くいると思うので、こうした人々が学び合う交流会のような取組は意味があると思う。

また、サステナビリティなどの新しい価値を持った食品は、世界的にも非常に注目されやすい傾向があり、こうした取組を行っている企業はアジアなどの現地調査を自ら行い、どこにビジネスチャンスがあるかなどを学んでいる。ヨーロッパ圏も含め、自らの五感で海外市場の可能性を感じることが出来る機会がもっと増えればいいと思う。

●吉澤部会長

良いものを作るということは大前提としても、いかに価値が高いものを作るか、それを適正価格で売っていくということが大切である。さらに、手に取って見たいようなデザイン、試験販売や人の目に触れる機会づくりなどを行っていく必要があると思う。

□小原文化振興課長

(目指す姿3、方向性②・③について、資料2により説明)

●佐々木委員

静岡県では、小中学生向けにデザインやプログラミングなど、さまざまな分野で活躍するアーティストやクリエイターなどが講師となって文化芸術の楽しさを伝えてくれるワークショップ、「ふじのくに子ども芸術大学」という活動を行っている。

私もプロデューサーの仕事をしてきたので、映像を作るクラスに参加してきたが、いろいろな学科の方が来るので多彩な芸術を体験できる。子どもたちは楽しそうに体験し、さらにプロの技術を見ることができて、将来の夢につながるようなきっかけづくりとなっている。

県内においても、例えば、県内の子ども達が将来の文化芸術分野を担う人材となるような、ミルハスを拠点としたきっかけとなるイベントがあればいいと思った。

●丑田委員

先日、秋田公立美術大学が設立して10年経過したということで、教授の藤浩志先生が「美大という文化政策」に係る記事を公開した。記事では、秋田県内の方は、「美大がある」という認識だけだと思うが、実は10年経って美大で育った生徒や先生方が、美術・芸術・文化の分野において、世の中では見えない物事や仕組みをイメージする力を育てているという記載があった。

この美大と地域に住む方々、学生、子どもたちが触れ合い、プロジェクトを組むようなことによって、次の10年に向けて本格的に花開く時代になるかもしれない。小中学生や市民を対象としたアウトリーチとして、美大の学生が参加することも良いことかと思う。

●齋藤委員

わらび座の取組について、東北各県の祭りなどをモチーフとするという、この地域性を出すことはすごく良いことだと思う。地域性に特化することによって、他では見れない秋田ならではのミュージカルというものであれば、県外客はもとより、インバウンド誘客にも魅力的なコンテンツとなり得る。

また、参加型ミュージカルという点も大変貴重であるので、地域性の点も含めて、もっとPRしていただきたい。

●吉澤部会長

観光コンサルタントの立場からすると、観光は地域の自然、そして歴史文化を見せるものであるので、文化行政は重要である。文化芸術活動を育むことは、県民のアイデンティティや郷土愛の醸成にもつながるものなので、ぜひ注力していただきたい。

□米田スポーツ振興課長

(目指す姿4、方向性④について、資料2により説明)

●吉澤部会長

新たな体育館の整備について、PFIによるとあるが、整備後はどこに運営を任せるかが重要である。こうしたソフトの部分も議論をしているか。

□米田スポーツ振興課長

従来の発注方法は、県が示す設計仕様に基づき入札等によって、落札した事業者が建築し、完成後は公募により指定管理者を選定し、決定した事業者が運営を行っているものであるが、今回はPFIという手法により民間資金と民間のアイデアを生かしていくものである。

具体的に建屋については、最低限の水準を示した上で、事業者は自由なアイデアに基づき提案するものであり、複数あることもあり得る。

施設の運営については、概ね15年ぐらいの維持管理を同じ事業者が行うこととしており、建てるだけではなく、稼ぐスポーツ施設としての具体的な提案をしていただく予定となっている。

●佐々木委員

他県の先進事例では、PFIで募集を行うと、県外の専門事業者と契約することになるのではないか。

□米田スポーツ振興課長

事業者単体ではなく、設計グループ、施工グループ、運営グループなどの様々な企業がコンソーシアムを組んで提案してくると想定している。その中では、全国的に実績のあるゼネコンのほか、地元の建設業者や運営を行う事業者なども入った上で、多様な提案がなされるものと考えている。

●丑田委員

全国の事例をリサーチした上で、これからPFI手法で進めていく流れは非常に良いことであると感じた。例えば、最近の事例では、北海道のエスコンフィールドはスポーツ施設ではあるが、民間の稼ぐ仕組みが組み込まれている。

競技のための体育館だけではなく、より幅広い視点でもって、さらに地元の方々が参加しやすいという点も踏まえた整備計画としていただきたい。

●齋藤委員

PFI手法について、全国的に手がけている事例が多数あると思うので、成功のポイントのほか、改良が必要な点なども事前にリサーチすることが必要かと思う。

丑田委員の言うとおりに、稼ぐ施設となるのであれば人がたくさん集まるので、観光への波及効果があるような活用方法も必要である。

□米田スポーツ振興課長

新県立体育館の整備にあたり皆様に伺いたいことがある。今の県立体育館の横に小高い丘があり、建設予定地内であるので半分程度失われてしまうが、地域の人たちにとって思い入

れがあるという意見が寄せられている。

遊具などの公園機能などは再整備することとし、スポーツ振興の拠点となる新県立体育館の大幅な機能向上を図ろうとしている中であって、こうした住民の思いに対し、どのように対応すべきか大変難しい問題であるので、ぜひ御意見をお願いしたい。

●佐々木委員

一般論としては、古民家を改装し新しいカフェに改装するなどの事例では、重要なところを残して上手に生かすことによって、古いものと新しいものが融合し、より価値の高いものを創るというコンセプトでもって納得していただいている場合が多いと思われる。

デザインなどの工夫を持って、何か生かす方法があれば良いと思う。

●齋藤委員

湯沢市でも思い入れがある木を切る際に問題になったことがある。

発展させるような形が望ましいと思うが、そのとおりにはいかないこともあると思う。例えば、公園で遊んだという思い入れがあるようであれば、以前はこういう形であったところを、今はこのように活用しているというような掲示板を作るなどして、思い出を残すことも一つの方法かと思う。

●丑田委員

歴史的な文脈とその土地の性格から、未来を描いていくことは大事なことであると思う。

丘が人工的に作られ、比較的歴史が浅いものであれば、例えば、崩した丘を移設する際には、同じ素材を使って移すことで自然への負荷を低減するなど、思い出を受け継ぐ、あるいは文脈としてつないでいくことが、一つのクッションになるかと思う。

●吉澤部会長

話を聞いた範囲では、手を加えても差し支えがないとは思いますが、丑田委員からの意見のとおり、歴史的な背景があれば何らかの配慮は必要かとは思いますが。

例えば、先ほど映像を作ることができる学生という話があったが、かつての場所をギャラリー的な写真や映像に残すこともあり得るのではないかと。

□米田スポーツ振興課長

大変参考になったので、今後の整備にあたって生かしてまいりたい。

●吉澤部会長

次に、目指す姿5の交通の分野であるが、担当者が一旦不在であるため、次の議事に入る。

(3) 第1回部会での提案に係る県の取組状況等について

●吉澤部会長

資料2の1ページを御覧いただきたい。

目指す姿1の観光分野について、前回意見が出たところも踏まえ、強調しておきたいことや抜けている点、風評被害などの点も含め、御意見があればぜひお願いしたい。

また、台湾との定期チャーター便が12月から再開するほか、中国の団体旅行も近々解禁される情報もあるので、インバウンド誘客に向けた意見もいただきたい。

●丑田委員

災害関係について、五城目町では1年前も同じように洪水被害があり、今回の台風も温暖化を含む、いろいろな影響があると思うが、地球環境が変わってきている中、地域の里山の環境が想定外の自然の力で崩れて、例えば、五城目では崩れた山の土砂が橋げたに詰まって洪水が起きたなど、人手不足などに伴い管理できなくなった里山から、結果的に主要インフラに対して大きな影響を与えている。

観光客や地域で暮らす人にとっても、サステナブルな自然や文化、里山の暮らしなどの自然に近いところでのリスクが高まっており、逆に都市で人工的に管理されたところの方が安全であるような印象に対して何かメッセージを出していかないと、自然と関わって暮らす秋田の魅力を伝えづらいということを改めて感じた。

例えば、ドイツでは、植林した地域において管理ができなくなり、土砂が崩れやすくなっているところを、再生していくことで自然の力を生かしながら、災害に強い街を作っていく取組が行われており、こうした結果、新しい産業の創出にもつながっていくと思う。

今回の災害を踏まえ、秋田に安心して来ていただけるよう、自然と人との関わりをもう一度再生させていくようなメッセージを発信できればいいと思う。

●吉澤部会長

里山は人の手が入ることで維持されている。管理ができなくなれば災害が起こることもあり得る。本物のサステナブルとは何か、秋田の資源性はそれを伝えられるものがそろっている。里山も秋田の大切な魅力の一つであり、適切な維持管理と対外的なメッセージの発信は必要かと思う。

●齋藤委員

認知度を上げる情報発信について、「川原毛地獄」の事例においてもファンの力を使うことは大事であると思う。認知度を上げるためには、知ってもらふ母数を増やすことであるが、まずは知ってもらわないと何も始まらない。例えば、有名なタレントによる情報発信や、資料にあるとおりスラムダンクもファンが多いので活用することは有用である。

初めて男鹿のロックフェスティバルに行ったが、あるミュージシャンがTwitterで「しょつつる焼きそば」などの地元の料理を紹介したところ、食べてみたいという声や初めて知ったという方が多くいた。

有名な方々が秋田に来る機会があれば、県産食品を提供すると発信してくれる可能性があるので、イベントなどの機会を活用するなど、秋田の認知度向上につながるような取組を増やして欲しい。

青森県のインスタグラムを見ていたら、ワンピースを田んぼアートとして描いたという情

報があった。ワンピースのファンも非常に多いので、青森に来て、地元の食を通じて、ファンになるかもしれない。ファンが多いコンテンツを活用して、知ってもらう機会をつくる必要がある。

●吉澤部会長

ターゲットを見据えた積極的なプロモーションという部分に関わってくる。インフルエンサーの活用も重要である。

●佐々木委員

以前、秋田市内のスギの植林に取り組む事業者の新聞記事を読んだことがある。スギの「3本巣植え」と言われている、三角形の頂点に1本ずつ植林する方法を何十年も行い、山を守りつつ、災害にも強いという内容であった。

人手不足の中、山の手入れをしながら維持していくことは大変であるが、現に実行している方もいる。本当のサステナブルはこうした取組にも現れているので、発信していく必要がある。

●吉澤部会長

次に目指す姿2の食の分野について、強調しておくべきことなどがあれば、ぜひお願いしたい。

(特になし)

目指す姿3の文化の分野について、強調しておくべきことなどがあれば、ぜひお願いしたい。

(特になし)

目指す姿4のスポーツの分野について、強調しておくべきことなどがあれば、ぜひお願いしたい。

(特になし)

最後、目指す姿5の交通の分野について、前回意見がなかった方向性①・②・④について御意見を伺うこととするが、はじめに、県から主な取組内容について説明をしていただきたい。

□三浦交通政策課長

(目指す姿5、方向性①・②・④について、資料2により説明)

●吉澤部会長。

まず6ページの施策の方向性①について、御意見はあるか。

●佐々木委員

秋田新幹線新仙岩トンネルの整備については、災害のための整備ということを県民に分かるように周知することが重要であると思う。

大館能代空港については、リピーターの方への補助が効いており、利用者数が増えていると聞いているが、空港周辺には宿泊施設や観光施設が少ないと感じている。

青森県側に宿泊するケースも多いと思うので、空港周辺の地域をどのように活性化するか、難しいことではあるが、いろいろな方法を考える必要がある。

□三浦交通政策課長

秋田新幹線については、多額の財政負担もあるので、様々な機会を捉えて、県民等に対し、整備の必要性を十分説明してまいりたい。

大館能代空港については、周辺に宿泊施設が少ないことは課題であるが、一方で、秋田内陸縦貫鉄道を使っていただくと、角館や田沢湖などの観光地にアクセスできるので、空港と鉄道が連携した効果的な取組について現在検討しているところである。

●吉澤部会長

大館能代空港については、これまでも発言しているが、空港を起点に本県を訪れた方に対し、どこを観光すればいいか、どこに泊まるかなどの観光コースをしっかりと情報発信することが重要である。

●齋藤委員

フェリーについては、私も時々利用しており、閑散期の利用はライダーの一人旅や、御夫婦の方が多いという印象を持っている。個人で調べて旅行する方々がターゲット層としては多いイメージがあるので、そういった方々が喜ぶような特典、パッケージプランを考えた方が良いのではと感じた。

大館能代空港については、周辺の観光資源が乏しいので、例えば、白神山地が目的だとすると、空港からのアクセスなど、分かりやすい観光ルートの情報発信があれば利用者はもっと増えると思う。

●丑田委員

フェリーターミナルや空港には、飲食店や売店があるが、県の玄関口でもあり、その県を代表するようなクオリティが求められていると思う。

施設内のコンテンツ力を高めることによって、空港やフェリーターミナルに行こうと思う、また、地元の方が足を運びたくなるような地域の拠点となる可能性は十分ある。

●吉澤部会長

秋田空港、大館能代空港ともに発着便数は限られているが、魅力的なテナントを誘致し場の力を増すことで、空港利用者の滞在時間の延長などが期待できる。

次に、地域公共交通の人材確保や第三セクター鉄道の利用促進について、意見を願いたい。

●丑田委員

冒頭にも発言をしたが、特にこの施策の方向性③の地域公共交通網の形成はとても重要であり、人材確保の対策として就職者を増やす努力は行うべきであるが、一方でやはり限界があると思われる。

ライドシェアなどの規制緩和は、法改正が伴うので現時点では導入が難しいが、そろそろ議論する環境になってきたかと思われる。

ライドシェアには大きな可能性があり、全国に先駆けてチャレンジすることが重要だと思う。

●吉澤部会長

地域公共交通は非常に大事な分野であるので、次の部会では提言書の文言をぜひ検討したいと思う。

昨年冬に、久しぶりに秋田内陸縦貫鉄道に乗ってみた。決して天気は良くなかったが、アジア系の観光客が雪景色を楽しんでいて、雪を知らない方にとっては、非日常的な雰囲気であったと思う。観光目的としての活用は戦略としてあり得る。

●齋藤委員

列車に乗ること自体を目的とした取組だけではなく、そもそもの観光の目的を作る、何かを見せる・体験させることを目的として、その手段として鉄道を使っていただく取組が有効かと思う。

●佐々木委員

アイデアベースであるが、例えば、保護猫を列車に乗せてコアな層を狙うなど、新たなチャレンジをすることが必要かと思う。

●吉澤部会長

チャレンジをする、話題性をつくるということが次につながるかと思うし、まずは知ってもらうことがきっかけにもなる。

その他、食や文化分野などへの意見はあるか。

●佐々木委員

食の分野のところ、フィンランドに対して重点的に売り込むとあったが、なぜフィンランドなのか理由を教えてください。

□黒澤食のあきた推進課長

昨年フィンランド向けのPRを行っている。市場としても、アジア圏とは違い競合相手が少ないだけでなく、日本のアニメの「銀牙」が流行っているほか、日本食も人気があり、現地で輸入を営んでいる日本人の方とのつながりがあるなどの下地がある。

また、北欧は、森林が多く、雪国であること、自然エネルギーが豊富など、本県の特徴と類似点が多く、親和性が非常に高い。新たな市場として大変期待しており、今後ともPRに力

を入れたい。

●丑田委員

約2ヶ月前にフィンランドを旅することがあった。北欧は日照時間が短い環境の中、クリエイティブな人材が多く、自然信仰的な要素もあり、湖を神様に見立ててサウナで整っていくようなツーリズムも発達している。向こうの空港を下りると、秋田空港のような景色が広がっており、秋田と東北にとって親和性が高い。和食についても、繊細で多様なものということで興味が高い分野である。

商圈としてのボリュームは小さいが、一点突破で北欧からヨーロッパに広がりを見せるといふ戦略もあり得るかと思う。

(4) その他について

●吉澤部会長

委員の皆様、事務局の方で何かあるか。

●丑田委員

食の分野であるが、今回、秋田市内の南通を含めた飲食店に相当被害があった。市内の美食エリアとして、特徴のある飲食店が多く被災したたので、何らかの支援を行って、美食秋田を復興させることが、観光キャンペーンにもつながるのではないかと思う。

□安達観光戦略課チームリーダー

本日は長時間にわたり御意見いただき感謝申し上げます。これをもって、令和5年度第2回観光・交流部会を閉会する。